

月刊

GPP



Vol.70

令和3年8月号

株式会社  
グロースパートナーズ

## 祭りは終わったが……

オリンピック祭りは終わり、パラリンピックがまた近づいているが、コロナ感染は増え続け西日本を中心に豪雨災害が延々と続いている。

一連の政府対応には、「どちらを選択しても言われる」ことを差し引いたとしても、筋の通らない話が散見されている。因みに、野党は論外だが・・・4年に一度やってくるオリパラだが、小学校4年生の修学旅行は一生に一度しかチャンスが無い。緊急事態宣言がもう一回延長されれば娘の修学旅行は自動的に中止だ。致し方ない部分はあるにせよ、親としては腑に落ちない。

先日来より豪雨災害が続いている。熱海に始まり、九州・中国地方はもはや何日間降り続いているのであろう。年々深刻になる豪雨災害。人口減少に伴う地方の過疎化問題と併せて、住む地域やインフラ整備の限定をしていかないと、絶えることのない問題となるであろう。

一方、ここでもまた摩訶不思議なことがある。熱海の土砂災害に端を発して土砂災害からの復旧覆工技術を静岡県が募集を開始した。国土交通省や日建連も関与していると聞いている。我がセルドロンも青木あすなろ建設様より申請させて頂いたが、しかし、「いまさらこんなこと募集するか？仕事してるふりがしたいのか？」とお尋ねしたい。今までどれだけの豪雨災害があつて、今までどれだけの展示会があつて、どれだけ多くの方々が関わってきて、いまさら募集ですか、と。

セルドロンも有事になるとお話しを頂く。しかし、有事になったら、てんやわんやで、それどころではないから、現場は受け入れることが出来ない。では、平時に話をすると「予算がどうで、ああだこうだ、ああだこうだ」でいつも話は終わる。聞くところによると、ここ数年の間に環境省では地震対策より水害対策の予算が上回ったとのこと。

私生活では早く平穏な日々が戻らないかと思いつつ、有事で無いと我々のような弱小ベンチャーは目立てつことが出来ないので、しっかりやって参ります。

藤井 成厚

# 小型生コンプラントでのセルドロン



小型生コンプラントでは、高層マンションや大型施設などの大口案件ではなく、戸建てなど小口案件を4t車や8t車で生コンクリートを運ぶことが多い。そのため、最後に余る生コンクリートも多く出てしまう。例えば、1日の納品現場数が20ヶ所の生コンプラントと40ヶ所のところでは、残コンが出る量が違う。

1ヶ所あたり0.3m<sup>3</sup>の残コンが出るとすると・・・

## 残コン量

20現場x0.3m<sup>3</sup>=6m<sup>3</sup>/日

40現場x0.3m<sup>3</sup>=12m<sup>3</sup>/日

\*6m<sup>3</sup>x25日=150m<sup>3</sup>/月

\*12m<sup>3</sup>x25日=300m<sup>3</sup>/月

この残コンを生コンプラントで処分するととても高額な費用がかかります。セルドロンを活用して、造立させすべて現場で荷下ろし活用することが出来れば、施工業者にとってもお得になるかもしれません。



セルドロンに関する  
疑問質問は  
営業 土井まで



03-4405-2642

## 土砂災害時のセルドロンの活用を提案

日本全国の大雨により各地で被害が発生しております。

セルドロンも復旧のタイミングでお声がけいただきますが、普段の工事でも活用できますので、事前に在庫のご検討をよろしくお願い致します。

